

のレメディに特徴的な出血がある場合。

- ・眼精疲労：泣いた後のように、眼が乾燥し、焼けるような感覚を伴います。眼の中に煙が入ったように感じる場合があります。冷たい空気が眼に当たっているような感覚になることがあります。

MODALITY

- 外気、朝食後、患部に手を当てること、あくび

- ❏ 暖かい部屋、動くこと、妊娠、思春期、新月や満月時の読書、熱、朝、絶食、物をじっと見つめること、横になること

RELATIONS

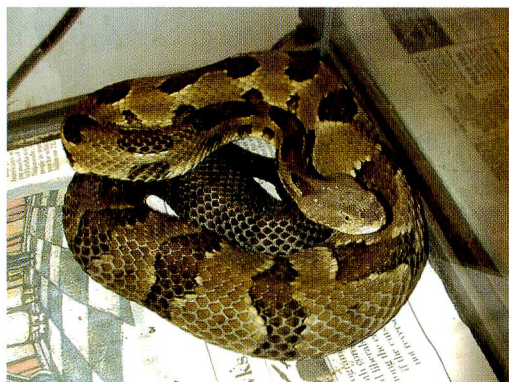
- ・ Antidote : Opium, Belladonna

Crotalus horridus ガラガラヘビ [凝固しにくい黒色の出血]

Crotalus horridus L.

BACK GROUND

Crotalus horridusは、北米カナダから南アメリカにかけて生息する、クサリヘビ科マムシ亜科ガラガラヘビ属の毒蛇で、体長は最大2mになります。岩場や乾燥地帯に生息しています。



(S)

一般的にはガラガラヘビ、ピットバイパーと呼ばれています。年に2、3回脱皮しながら、大きくなっていきます。ガラガラヘビの目のすぐ下にはピット器官という熱を感じる2つの穴があり、それによってどんな小さな温度の変化にも気づくようになっています。その感覚を使ってガラガラヘビは温血の獲物を見つけて襲いかかります。尻尾の先端に音の発生装置があり、カラカラ鳴らして防御行為をします。尻尾は1秒間に50回以上も振動させます。

ガラガラヘビの蛇毒の組成は非常に複雑です。その中には、わかっているだけでも十数種類の加水分解酵素があります。同じガラガラヘビでも生息域によって、

毒の組成が微妙に違うことがわかっています。その蛇毒の中には、神経毒作用、出血毒作用、心臓毒作用、壊死毒作用、血液凝固阻止作用、浮腫作用、血圧降下作用など多岐にわたる作用があります。クロトキシシン（強力な神経毒作用をもつ）やクロタクチン（毛細血管の透過性亢進）、レクチン、トロニン様酵素（出血毒）、壊死毒（マイオトキシシンAやホスホリパーゼA₂）など、ほかにもたくさん知られています。また、ミネラルでは亜鉛を顕著に多く含んでいます。また最近では、アポキシシン₁という、細胞のアポトーシスに関与する酵素も発見されています。

出血因子はさまざまなものがありますが、それらは、血管壁の基底膜を破壊または自滅させて、内皮細胞間隙を広げることによって、赤血球が血管外へ出てしまうものと、内皮細胞を破壊することによる出血があることがわかっていますが、その詳細な機序についてはわかりません。

これらの多くの活性物質をもつ蛇毒は、局所作用と全身作用の両方をもたらします。現場の状況により、体内に入る毒の量は変わります。咬まれた場合、患者の感受性の違いで大きく症状が変わります。ガラガラヘビに咬まれると、咬まれた直後からアイロンを当てられたような灼熱痛、浮腫（通常10分以内）、咬傷個所と隣接組織の紅斑や斑状出血を起こします。中程度に咬まれた場合は、皮下の斑状出血は3、4時間で出現します。そしてリンパ管炎、局所リンパ節の腫脹が見られます。

局所組織の損傷の後に、脈管障害、溶血、汎発性血管内血液凝固症候群（DIC）、呼吸不全、心不全、腎不全、神経系の異常が起こります。この毒素は毛細血

管の透過性亢進作用や血管壁の細胞破壊作用などによって、電解質やコロイド、赤血球が血管壁を透過し、毒が注入された箇所や他臓器へ滲出していきます。そして低アルブミン血症、血液濃縮が起きて、その後、微小循環内の血液と体液が貯留する結果、ショック、低血圧、乳酸血症へと進行します。

重症のガラガラヘビ咬傷では、多岐にわたるさまざまな凝固障害や血小板減少、低フィブリノーゲン血症、プロトロンビン時間の延長などが起きます。こうした毒物誘発性の血管内凝固は、汎発性血管内血液凝固症候群に似た状態を誘発し、結果として体各部位からの大量の出血（吐血、血尿など）、黒色の内出血が起きることになります。しつこい持続性の鼻血が出ることもあります。溶血により皮膚の色が黄色くなることがあります。低血圧、溶血、汎発性血管内血液凝固症候群に続いて、溶血が重度でなければヘマトクリット値の急激な上昇が起きます。

GFR（糸球体濾過率）の不足により、腎不全になることがあります。一部の症例では、蛋白尿、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿がみられます。また神経毒としての作用は、最初はたわごとを言いますが、意識がもうろうとして虚脱状態になります。末梢では麻痺やふるえが起きます。味覚異常も起り、ゴムやハッカ、金属のような味がすることがあります。舌がむくんだり、舌や喉が細い糸で締めつけられるような感覚が出ることがあります。

MATERIAL

生きたガラガラヘビを容器に咬ませて蛇毒を採取し、乳糖にしみこませたもの

FIRST PROVING

Hering (1835～1837)

CLINICAL APPLICATIONS

*Crotalus horridus*の適用は比較的Lachesisに似ています。主に黒い出血に使用します。

■出血

- ・黒色の出血で凝固しないか凝固しにくい
- ・持続性鼻出血、持続性子宮出血

■脳卒中

■心疾患

- ・心拍は、弱く、ふるえるような感じ。生理中に動悸
- ・胸の痛みが左下に寝ると悪化します。痛みは心臓付近から左の肩や左の腕にかけて起こります。

■一時的精神錯乱

- ・敗血症時や頭部外傷後などで憂うつな状態に。悲しくて憂うつになり、家族が近寄るのを嫌います。
- ・感情をうまく自己表現することができません。

■出血傾向の強い感染症（よくPhosphorusを併用します）

- ・胃癌などで出血傾向が強い場合にも使用します。
- ・豚肉を食べるのが好きです。

MODALITY

➤ 外気、運動、明かり

❏ 睡眠、歩くこと、触られること、きつい服を着ること（とくに首まわりのきつい服）、右下に寝ること（心疾患の場合を除きます）など。Lachesisと類似。Lachesisと違い右側優勢。

RELATIONS

・ Antidote : Lachesis, Alcohol, Camphor

● *Crotalus cascavella* : 中南米に生息するミナミガラガラヘビのレメディです。不正子宮出血、鼻血、甲状腺腫、頭痛、躁病などに使用されています。

Croton tiglium ハズ [強いかゆみと下痢]

Croton tiglium L.
Croton seed

BACK GROUND

*Croton tiglium*は、東南アジア、主にマレー半島原産のトウダイグサ科ハズ属の小高木ハズです。この植物の種子は、巴豆（ハズ）と呼ばれています。巴豆は、

同じ科に属するヒマの種子に形が似ています。

巴豆は樹高3～6mになり、分枝は少ないです。葉は滑らかで披針形。表面は暗緑色、裏面は薄い色で、不快臭があります。開花期は初夏で、直立、頂生する